専大スポーツ

No. 375

大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

男子　3季ぶり通算29回目　優勝

7戦全勝　及川が殊勲賞

優勝を喜ぶ卓球部男子＝撮影・冨樫幸恵（文3）

春季関東学生卓球リーグ戦＝5月4～21日、埼玉県・所沢市民体育館ほか

男子が7戦全勝で通算29回目の優勝を果たした。男子のリーグ優勝は2015年秋以来。春季リーグの優勝は、1994年以来、実に23年ぶりだ。

大会4日目に春季6連覇中の明大と対戦。勝てば優勝が決まる大事な試合で、一番手の田添健汰（商4・希望が丘高）が接戦の末、まさかの敗北。しかし、チームは動じなかった。続く田添響（商3・希望が丘高）がストレート勝ちでタイに持ち込むと、そこから怒とうの3連勝。4―1で勝利し、最終戦を残して優勝を決めた。

今年は選手層の厚さが際立った。昨春、最優秀新人賞に輝いた及川瑞基（商2・青森山田高）は、力強いプレーでチームに勢いを呼びこんだ。出場した6戦で全勝し、殊勲賞と優秀選手賞を受賞。

ダブルスでは田添健汰・郡山北斗（経営3・関西高）ペアが7戦全勝の大活躍で、2度目の最優秀ペア賞に選ばれた。

下山優樹主将（人間科学4・青森山田高）は「たとえ自分が負けてしまっても次の人が勝ってくれる、そんな信頼感がチームにあった。応援してくれた人たちに、最高の結果で恩返しができてよかった」と振り返った。

春季3連覇中だった女子は残念ながら6位。しかし、安藤みなみ（商3・慶誠高）が7勝を挙げ、優秀選手賞を受賞した。（飛田翼・文3）

殊勲賞と優秀選手賞の及川＝撮影・飛田、5月5日、駒大戦

世界卓球混合ダブルス　田添組ベスト8

5月29日から6月5日まで、ドイツ・デュッセルドルフで2017世界卓球選手権が行われ、混合ダブルスに、全日本選手権2連覇、アジア選手権銅メダルの田添健汰・前田美優（日本生命）ペアが初出場。目標のメダル獲得とはならなかったが、ベスト8と十分な結果を残した。

メダル獲得を目標に掲げ、大会4カ月前から集中して練習に取り組んできた。

試合直前には、「会場の雰囲気に緊張していた」という田添だが、試合が始まると「この舞台で戦える喜びに変わった」と決勝トーナメント1回戦を4―0のストレートで突破。2回戦は一転して最終セットまでもつれ込んだが、2人のコンビネーションで勝利し駒を進めた。

3回戦はサーブ、レシーブを得点につなげ、危なげなく準々決勝へ。その準々決勝は先行しては逆転されというシーソーゲーム。「勝てるチャンスがあっただけに悔しい」（田添）展開の末、セットカウント2―4で敗れた。

悔しさの一方で「今後はシングルスでも日本代表の選考に食い込んで、この舞台に立ちたい」と強い思いを語った。（冨樫）

抜群のコンビネーションを見せた田添（右）・前田ペア

枝松・牧之内ペア準優勝

関東学生新人選手権大会＝5月26、27日、埼玉県・新座市民総合体育館

1年次生ながら春季リーグ戦にも出場し、経験を積んだ　枝松亜実（人間科学1・山陽女子高）・牧之内菜央（文1・遊学館高）ペアが準優勝を果たした。牧之内はシングルスでもベスト4の成績を残した。

リーグ戦ではそれぞれ別の選手とペアを組んでいた2人。練習に割ける時間は少なかったが、「どの試合も思いきってできた」と持ち味である気持ちの強さを出して戦った。

苦しい展開になることもあったが、最後まで諦めることなくプレーし、決勝に勝ち進んだ。

試合を振り返って2人は「左利き同士のペアで難しさもあったけれど、お互いができることをやろうと思って試合に臨んだ。準優勝できてよかった」と安堵の表情を見せた。（飛田）

標的に照準を合わせる織田（左）

リカーブ女子　織田が2位

全日本フィールドアーチェリー選手権＝6月2～4日、滋賀県・奥伊吹スキー場特設会場

リカーブ女子の部に出場した織田真理子（文4・大宮開成高）が2位となった。

フィールドアーチェリーは、山の中や草原など、自然の中に設置されたコースで競技を行う。

大会連覇中だった織田は、「3連覇を目指し、頑張ろうという気持ちで大会に臨んだ」というが、予選はボーダーラインの8位で通過。決勝では本来の実力を発揮し、一気に順位を上げたが、優勝には届かなかった。

織田は「これまでの自分の成績と比べると、予選の点数が低すぎ、悔しかった。結果にめげず、決勝ラウンドではしっかりと気持ちを切り替えることができた点が良かった」と振り返った。

今後の目標は9月に行われる全日本学生個人選手権。「予選落ちが続いているので、まずは予選を通過し、上位入賞を目指したい」と意気込みを語った。（福井彩乃・文3）

他大学の馬にもうまく順応し、障害を飛び越える齊藤

齊藤が優勝

馬場、障害2競技　人馬一体ミスなく

関東学生馬術選手権・女子選手権＝6月2～4日、静岡県・御殿場市馬術・スポーツセンター

齊藤景太（経営4・札幌光星高）が優勝を果たした。

今大会は馬場馬術、障害飛越の2競技の総合で争われた。3回戦以降は貸与馬形式となり、「自分の型にはめるのではなく、ミスがないように丁寧に乗ることを意識した」と慣れない馬相手でもうまく順応することができた。

決勝は障害飛越で減点0とノーミスの騎乗を見せた齊藤。しかし、優勝の要因を「馬場馬術競技の得点が結果に大きく影響する中、そこで負けなかったことが良かった」と語った。

「馬がいてこそのスポーツなので日々の管理をより一層確実なものにして、人馬ともに良い状態で次の大会に臨みたい」と次を見据え、6月末に行われる関東学生馬術競技大会での優勝を目指す。（大河原佳也・文3）

ONE DAY TEAMMATE 2017申し込み受け付け中

体育会では地域貢献活動の一環として、毎年スポーツ教室を開催している。今年度は20種目25教室を実施。参加費は無料。詳細や申し込み方法は大学ホームページ、またはFacebook「専修大学One Day Teammate」でご確認ください。

問体育事務課　☎044・911・1273
E-mail：1dayteam@acc.senshu-u.ac.jp